

白山山行記録



目的地	白山（尾根線～山頂～田村線）	期 日	平成 16 年 1 月 6 日（土）
山人	笠原正雄単独	特 記	木六山・銀次郎を断念してこちらに回った。

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前 4:20 発		暮坪バス停から右折して杉川に沿って進む。チャレンジランドと柴倉沢登山口への道を右に見送り、進入禁止の標識のある舗装道へ直進する。
悪 場 峠	6 時過ぎ		峠の看板も見当たらない。ピーク手前に峠道開通の記念碑と白線で区切られた 5～6 台分の駐車場あり。車は止まっていなかった。駒ヶ岳での燕二人の話やネット情報を念頭にして入口を探す。3～4 度行き来して目を凝らしたが残念なことに見つけられなかった。気持ちも萎えてきて家へ帰ろうかとも思ったが、白山へ。
慈光寺茶屋前		曇	駐車場はガラ空き、登山者らしき車も無い。トイレ。のち夫婦登山者の車が来た。「新潟ファミリー登山」本を見せてもらい、尾根線上山、田村線下山とした。彼らは尾根線は経験済みで、今回は田村線を行くと言って先行していった。パンと缶コーヒーを食べて、靴を履きかえる。
慈光寺下駐車場	8:00 発	〃	登山者の車が橋を渡り、杉林を進んで行ったので、それにならって先へ進むと、登る準備の人々がいた。
		〃	歩き始めるとすぐ、左に田村線の道がある。直進し、橋を渡って支尾根の急登始まる。5 分ほどして、一枚脱ぎ、ベストも脱ぐ。ところどころロープがあるが無くとも登れる。 主尾根に上がれば、傾斜は緩み、気分良く歩く。途中キジ。
5 合 目	9:00	〃	地元年配者が休んでいた。年に 3～4 回この山を登っていると言う。雑木の葉が落ちているので、少しは周りの山や下界が見える。やや急に登るところもあるが、さほど辛くはない。途中下山者 2 人と会う。
山 頂	9:55～11:30	曇 晴	稜線に上がると藪で展望の利かない平坦路。しばらくして避難小屋に入る。2 階建ての立派な小屋だ。鱒池を経て山頂。誰も居なかった。北側が開けているだけで、南に栗ヶ岳への道標があるが藪になっている。地元年配者が来たが、今日はいつも見える日本平山もモヤッと見えないと言う。茶屋前夫婦が上がって来た。更に続々上がって来て賑やかになる。少し木に登って栗ヶ岳、矢筈・青里を教えて貰った。晴れてきてポカポカ陽気になった。暖気と久しぶりの賑やかな山頂だったので長居となった。時間も早いので皆がゆっくりしていた。
5 合 目	12:10	晴	田村線を下る。梢の間から今日行く予定だった木六から銀太郎の山が見えた。ブナの落ち葉を踏んでの下り。途中杉林が一部ある。後半になって急降下があり、沢音も次第に大きくなる。
慈光寺下駐車場	12:55	〃	天狗祠殿に出て石段を降り、右上写真の慈光寺境内を通り駐車場へ。着替えて帰路につく。茶屋前も参拝者の車が相当台あった。

どちらのコースもあまり展望は利かない。尾根線は登り一丁だ。田村線は少しアップダウンがある。弥彦の 1.5 倍程度のアルバイトだろう。山頂に小屋もあるので、春早い時期に登れそうな山だ。
無雪期では初めて 2 本杖歩行をした。登りも傾斜が合えば効果はある。下りは威力抜群で速く歩けた。
銀次郎へは入口を見つけられず残念であった。